

会報

大学生協友の会

2024年6月1日
第42号
大学生協友の会発行



〒166-8352 東京都杉並区和田 3-30-22 全国大学生協連役員室 TEL: 03-5307-1111
E-mail univcoop@univcoop.or.jp ホームページ: <https://unico.itigo.jp//>

大学生協友の会 七月定例会案内

大学生協友の会幹事長 伊野瀬十三

会員におかれましては、ますますご清栄のことと存じます。

来る七月十三日（土）、大学生協友の会第三十二回総会が開催されます。今総会では、例年行っていた特別講演会を割愛し、総会と懇親会のシンプルなスタイルを採りたいと思います。友の会も高齢化が進み、長時間の拘束はきつくなっているとともに、もっと近況報告等の会員交流の時間を多く取れるようにしたいと考えました。多くの皆さんの参加を期待しています。友の会の二〇二三年度の活動は、コロナ禍で活動と入会者が停滞した状況を何とかコロナ以前に戻すことを重点とし、いくつかの取り組みをしてきましたが、まだ成果は十分とはいえません。この課題克服に向け皆様のご協力をお願いいたします。

話は変わりますが、大変厳しい中東情勢ですが、ハマスとイスラエルの和平はなかなか実現しそくにありません。現在、全米

各地そしてヨーロッパや日本の一部大学で、反イスラエルの学生運動が盛り上がっています。アメリカの学生運動では、大学によるイスラエル関連企業への投資を止めることを要求項目に入れるなど、戦術上にインテリジェンスを感じます。七十歳中盤に入った我々からすると、六十代後半から七十年代初頭にかけてのベトナム反戦運動や日本の大学民主化、大官法反対、七十年安保、沖縄返還闘争などを想起させるものがあり、すこし興奮を覚えたりしています。

今日の日本の政治、経済そして国民生活は、長期に亘る自公政権の腐敗と墮落によって絶望的な状況になっています。来るべき選挙においても「ゆ」党ぬきの野党勢力による政権交代を実現するため、若者とも協力し“老人パワー”を今こそ発揮したいものです。

大学生協は引続き“再生”に向けて役員一丸となって奮闘し

ています。序々にコロナ以前にの実績に近づきつつありますが、コロナによる組合員の生活や行動の変化に対応するためには、もう少し時間が必要です。友の会は、役職員の皆さんを励まし、応援し続けていきたいと思っています。最後に再度総会への積極的な参加を呼びかけます。

〈定例総会概要〉

日時… 七月十三日（土）

午後二時開催

場所… 大学生協杉並会館地下一階

〈懇親会〉

日時… 七月十三日（土）

午後二時半開催

場所… 大学生協杉並会館5階

〈幹事会〉

日時… 七月十三日（土） 午後一時

場所… 大学生協杉並会館地下一階

京都に思いを込めて

倉方 欣平

二〇二一年六月三十日七時。

パティオの柳馬場通に面した左隅、ここが私たち夫婦の指定席。自転車の前後ろに子供を乗せ保育園？に急ぐ母子、足早に駅に向かう人々、旅館に食材？を下ろす車、、見慣れた朝の光景。おぼんざいを食し、コーヒーを飲みながらゆつくりと過ぎ去る至福の時。かつて忙しく過ぎ去った日々を埋めるとき。ただ違うのは七月からいつもお世話になっているコープインが閉館すること。非常に悲しかった。夏越の祓をし、別れを告げた。

昼食は一乗寺の中谷のいろいろごはんと豆乳スイーツ、志津屋のカルネ、ふたばの豆大福と赤飯、今宮神社参道のあぶりもち、季節によつては千本釈迦堂のやけどしそうなだいこんだき。十七時になると予約しておいたおかずやいしかわのカウンターで生ビール。銀閣寺か先斗町の

おめんどううどんと生ビール。四条河原町の高島屋か烏丸の大丸で十九時過ぎから始まる半額のおぼんざいとコンビニで買った缶ビールで乾杯。還暦になり京都に通い始めたところから十余年続くいつものルーティン。正月は七福神めぐりや東寺のあ



やしい露天の並ぶ初弘法市、二月は城南宮のしだれ梅や北野天満宮で梅を味わい、紫陽花の季節は三室戸、夏は五山の送り火や保津川下り。秋は東福寺などの紅葉だが、とりわけ気に入っているのは圓光寺と貴船に向かう叡山鉄道の紅葉のトンネル。京都三昧の日々はさらに京都検定のチャレンジへと続いた（現在二級）。学生時代は組織研修セミナーや会議など、時には府知事選の応援。就職してからは商談や工場点検の日々。それぞれ思い出すのは会場と往復の新幹線。京都には魅力を感じながらも深められなかったという思いを埋めたかった。特に宗教にこだわりはなく、文化としての寺社を巡る中で偶然出会ったのが大原来迎院の薬師如来像（藤原時代の古びた木仏）。五年前から年五回くらい訪れ、家族の健康に願をかけたのも京都参りの理由のひとつ。

夫婦だけで穏やかに、季節や文化・風習に触れ、おしゃべりし、時をともに過ごすこと、これが一番の目的。ある時は過激

な旅も。朝六時の清水寺。高山寺から神護寺をへて嵯峨野まで清滝川を下ったことも。狸谷山不動の二百五十段の階段上り、急坂の善峯寺、まるで奈良地域の浄瑠璃寺の九体の阿弥陀仏、伊根の舟屋、明智光秀の福知山城、インクラインなど興味は続く（現在八十五寺院、三十八神社他）。

「組合員のため」「〇〇のために」を大切にしてきた。それ自体は協同組合人としての誇りであり、否定や後悔はしないが、それに「自分たちのために」を追加したくなった。哲学の道の西田先生の名句「人は人、吾はわれなり、とにかくに吾行く道を吾は行くなり」をかみしめながら、「やりたいことがあること」「行きたいところがあること」「大切なのは今であり明日である」「ワクワク、楽しく」が幸せなこと。介護の合間だが、京都めぐりと百名山登山を夫婦のライフワークとして生きていきたい。

「学生総合共済のDNAをつなごう！」

元大学生協共済専務理事

寺尾 善喜

友の会事務局から「学生総合共済のもつDNAを後輩につなげていくことが大学生協の再生に不可欠の思いから、OB・OGだけでなく現役職員に事業統合に伴う活動の変化と職員の頑張りを伝えたい」との話をいただきました。私からは、共済事業統合の経緯について紹介し、「変



化と頑張り」については次回以降の寄稿者にバトンをつなぐとします。

学生総合共済は一九八四年に大学生協連が事業開始し、二〇一〇年に大学生協共済連が事業を継続し、大学生協の組合員を対象に募集を展開し、大学生協連、大学生協共済連そして会員生協のOB・OGの熱心な取り組みが結実して、一九八四年に三万人程度であった加入者は二〇二一年時点で六十八万人に到達していました。共済事業のさらなる発展に向けた大学生協共済連とコープ共済連による学生総合共済の共同引受は、二〇一七年から検討を開始し、約五年の検討と準備を経て、二〇二一年八月の契約管理業務の統合と学生総合共済の募集開始、二〇二二年一月のコールセンター業務の統合二〇二二年二月の新共済保険基幹システムのサービスインと共済金業務の統合などの課題に取り組み、二〇二二年四月よ

り共同引受を開始しました。共済保険システムを統合し、契約管理業務、コールセンター業務、共済金支払業務を事務統合していく業務変更には、大学生協共済連の該当部署から出向で参加してもらいましたが、新システム稼働初期のトラブル対応、慣れない契約事務での業務滞留の解消、新型コロナウイルスの大規模増加による共済金業務の滞留の解消など、出向した職員の皆さんには本当に頑張っていたいただきました。心より感謝し敬意を表します。

共同引受の実施準備を進めていた最中、二〇二〇年以降の新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、厳しい経営を強いられた大学生協の事業と組織の再生に向けた方策を検討した結果、大学生協共済連の保有する共済契約をコープ共済連に包括移転と事業譲渡をし、大学生協共済連の解散後の残余財産を会員生協に配分する事業再生スキームが二〇二一年十二月の通常総会と二〇二〇年五月の臨時総会で議決・決定され、二〇二〇年九

月三十日に大学生協共済連からコープ共済連へ共済契約の包括移転と事業譲渡が実施され、大学生協共済連の会員生協は二〇二二年九月までにコープ共済連への加入と業務委託契約書の締結を完了し、二〇二二年十月よりコープ共済連元受のもとで学生総合共済の募集を継続し、二三年新学期、二四年新学期も熱心な推進活動を展開しています。解散により大学生協共済連の職員はコープ共済連に移籍し、新設された「大学本部」をはじめ各本部に所属し業務にあたっています。出向ではなく移籍という待遇の変化のなか、コープ共済連の業務組織のなかでこの一年半、新しい風土と組織に順応しながらも、大学生協の組織風土も熟知したコープ共済連職員として頑張っていることを報告いたします。

法政生協定年退職者・還暦をお祝いする会開催

二〇二四年三月二日（土）に法政大学市谷キャンパス、ボアソナードタワー地下一階生協食堂フォレストガーデンで、法政生協定年退職者・還暦をお祝いする会が開催されました。

コロナ禍の中、二〇一九年を最後に四年ぶりの開催となったため、退職、還暦を迎えられた方が三二名という大人数になりました。しかし、まだ仕事を続け



られている方も多く、新学期直前ということもあり、お祝い対象の方は九名の参加で、全体では三四名の参加で盛会となりました。

会の最初に呼びかけ人代表の伊野瀬さんより挨拶をいただきました。その挨拶の中で法政生協のOB・OG会の設立が提案されました。続いて事務局の柴田さんより今年の秋に設立総会を実施する予定で準備を進めているので、多くの人に呼びかけて、参加してほしい旨の報告がありました。当日参加されたほぼ全員の方から参加の意思表示がありました。

乾杯の後、法政生協の現状について報告がありました。今回は古本専務が多摩キャンパスで新入生向けの企画があり欠席のため、佐藤晋輔前専務より報告をいただきました。報告の内容はコロナ禍で経営に大打撃を受け大変厳しい状況が続いていまし

た。二〇二三年に「経営再建計画」を策定し、様々な取り組みを実施してきました。その一つの成果として、長年苦しまされてきたセブンイレブン市ヶ谷店の運営を、二〇二四年二月より生協で実施する事となり、収益の柱となっていること、生協加入強化の取り組み、パートナー制の導入、新学期活動の強化等、経営再建を進めていることが報告されました。

二〇二三年度も経常剰余黒字が見込まれ、再建計画最終年の二〇二五年までに黒字の経営構造の確立を目指して努力中とのことでした。

また、学生委員会も下火となった店舗企画や、新入生を迎える企画も対面で開催するなど、徐々に頑張ってきているとのことでした。

しばらく懇談の後、この四年間で定年退職・還暦を迎えられた、青木崇さん、遠藤深雪さん、小野久美子さん、上台由気恵さん、末益毅さん、萩原克己さん、森安力さん、山口幸一さん、山口哲也さんの九名の方から近況報

告と今後についてお話をいただきました。記念品をお渡しいたしました。久しぶりに顔を合わせた方たちが多く、近況や昔話に花が咲いたようで、大いに盛り上がりました。最後にOB・OG会の結成に向けて多くの人に呼びかけていくことを確認して会を終了しました。



東洋大学生協からのお便り

東洋大学生生活協同組合

専務理事 柏木 浩樹

東洋大生協の二〇二三年度の振り返りと二〇二四年度計画と新学期事業の様子についてご紹介させていただきます。

＊東洋大学の概要と生協＊

東洋大学は四キャンパス十四学部三万一千名超の大規模私立大学ですが、東洋大学生協は二〇二三年度末現在、組合員数二万



社会人基礎能力の養成講座のワーク様子

七千名、六部門で供給高十一億八千万円の中規模生協です。学部のキャンパス移転に伴い二〇二四年五月六日、四年ぶりの朝霞新キャンパスに朝霞店が新規開店いたしました。

＊二〇二三年度振り返りと二〇二四年度計画＊

コロナ禍以降オンデマンド授業の増加と学内の滞在時間の減少で、客数は当時の六十％程度に止まっていますが、営業時間の延長要望もあり、営業効率は悪化し二〇二三年度経常剰余金は二千万円の赤字となりましたが、おにぎりアクションやヴィーガンスノードルなど社会課題に取り組む団体の情報発信の場として生協を活用していただいている点は、日々組合員の期待を感じております。

二〇二四年度は一、新学期事業の成功、二、食生活支援、三、東洋大生の学びと成長につながる

る取り組みの強化、四、一人あたりの利用高アップ、五、効率運営と安定稼働を重点課題として掲げ、『中期計画の二〇三〇』の二〇二五年度数値目標である経常剰余金〇円を見通すことができる一年にしてまいります。

＊二〇二四年度新学期の成果＊
長期有償型インターンシップである二十名の新学期プロジェクトメンバーとともに、三〇〇名アンケートから学部（学科）別のべ、一九二三組が参加された入学準備説明会で訴求し、推奨パソコンは五百十二台から七百四台、iPadは九十九台から二百三台と大きく伸長しました。メンバーは単なる商品を販売したのではなく、東洋大生の学びスタイルを先輩学生として伝え、先輩のような学びをしたい新入生が購入したのです。まさに『レビットのドリルの穴理論』です。

今年から二つの講座を内製化しましたが、企画造成から当日運営まで新学期プロジェクトメンバーが中心的役割を担っています。



朝霞新店舗前（本人：新井淳子店長）

す。有料パソコン講座の申込者数は百十五名から二百三十七名になりました。また、今年初めて企画した『社会人基礎力養成講座』は五か月間におよぶPBL型の講座で百二十二名にお申込みいただきました。チームにはメンバーも加わり、九月には東洋大学生協が取り組む「SDGs推進のためのキャンペーン」を提案していただく予定です。働ける日が遠くない未来にあるのでは、と思える新学期となったことが私個人としての1番の成果です。

協同活動と人間賛歌、この道を歩んだ我が人生に悔いなし

元大学生協連常務理事 稲川 和夫さんインタビュー②

の改訂などの活動を行った。

二十人余りが働く職場環境は、極めて悪く、設備も不備であった。時々調理の指導も受けたが、主力は、皿洗いと調理済みの鍋、フライパン、ガス台の清掃などの重労働であった。ボランティア活動で体力が弱っていたために突然倒れてしまい、東大病院に入院、検査、治療を受けた。医師は長期の栄養失調で定期性支肢麻痺症と診断されたが、適正な食事と休養をとればよくなると言われ、一ヶ月程入院した。それから数ヶ月を経て、労働組合の役員選挙があり、食堂分会が推薦し、他の職場をオルグして、私が当選してしまった。私は委員長として職務を果たすために「生協とは何か」など生協に関する書籍や資料を読み、一般企業とは違った生協における労働組合の活動のあり方などを考えながら、賃金・労働条件・社会保障などとともに賃金体系

一九五七年の初め頃、私が早大生協からの食堂幹部人事の要請に指名された。食堂事業は全くの素人であり、固辞したが、説得されて移籍した。その頃の早大生協は、まだ専従役員制が確立されておらず、学生専務理事であった。専務から「早大は学生数が多いが、厚生施設は貧困であり、食堂もより大きなものを大学に要求するつもりだ」と法学部自治会のある広場にある小さな生協食堂を案内された。数ヶ月後この食堂は、校舎の接続工事のために閉鎖されたために、生協から「学生のために新しい食堂をつくれ」と各自治会に呼びかけ、瞬間に学生の共感となって広がり全学食堂対策委員会に発展した。大学側もこの要望を受け入れ、大隈横丁にあった木工所を改修して七十名収容する新しい食堂を開設した。地上であるうえに作業環境もよ

く、学生の利用にも便利であり、学生組合員の高い支持を得る食堂となった。この食堂の運営に当たった若い栄養士の業績が大きかった。

早大生協の新しい食堂の運営が順調にすすみ、軌道にのった頃、市ヶ谷の法政大学の五八年館が竣工して、その地下食堂と売店の運営を巡って対立を続けていた。大学側との間で地下食堂を生協に、二階の教職員食堂を業者に、また売店の一部を生協に委託することで合意し、開店準備をすすめていた。地下食堂は、収容席数二五〇名、近代化された厨房、食器自動洗浄機など配



置され、労働環境にも優れ、東京の大学生協食堂施設では最先端と言われていた。連合会を中心に東大生協、早大生協などから人的支援と技術支援が行われた。この一貫として法政大生協から早大生協に対して食堂運営責任者としての支援要請があった。まだ大隈横丁食堂が開店してまだ一年もたっておらず心配であった。法政大生協の二名の教員にお会いしてお話を伺い、赴任を承知した。すでに食堂は開店しており、堀口さんが担当していた。学内に大きな業者食堂と競合する大食堂になれば、事業計画、業務管理、人事配置や収益管理などを正確にしなければならず、大学の学事行為、気象気温、価格動向、献立志向、献立管理などを作成分析し業務をすすめるければならない。しかし開店したばかりで、実績資料はゼロに等しい。実績を分析して対応できるようにになった。(つづく)